

令和6年度第3回島根県幼児教育推進協議会 議事次第

- 1 日時 令和6年10月10日（木）10：00～12：00
- 2 会場 サンラポーむらくも 2階 興雲の間
- 3 議題
 - (1) ヒアリング報告
 - (2) 改訂の骨子に係る検討について
 - (3) 幼児教育振興プログラム改訂に向けたスケジュール（変更）について
- 4 配付資料
 - 資料1 島根県幼児教育振興プログラム改訂骨子案に係るヒアリング要旨
 - 資料2 島根県幼児教育振興プログラム改訂版について

令和6年度第3回島根県幼児教育推進協議会 出席者名簿

1. 委員

氏名	所属・職名	出欠
小山 優子	公立大学法人島根県立大学人間文化学部 教授	出
峯谷 玲子	島根県国公立幼稚園・こども園長会 会長 (松江市立津田幼稚園 園長)	出
西谷 正文	島根県私立幼稚園連合会 理事長 (学校法人光幼稚園認定こども園光幼保園 園長)	出
川上 雅文	荒茅保育園 園長	欠
相山 慈	認定こども園あさりこども園 園長	欠
塩満 恭子	認定こども園神田保育園 園長	出
今岡 篤子	島根県幼児教育研究会会長 (出雲市立塩冶幼稚園 園長)	出
安達 利幸	島根県小学校長会会長 (松江市立宍道小学校 校長)	欠
長岡 和志	松江市保育所(園)保護者会連合会 会長	出
持田 万規子	松江市こども子育て部こども政策課 保育指導官	出
重田 幸	大田市健康福祉部子ども保育課 副主幹	出
八束 政義	島根県教育庁特別支援教育課 課長	出

2. 事務局

氏名	所属・職名
石橋 裕子	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 室長
野島 博行	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 企画幹
宮崎 次光	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 指導主事
岩成 佳子	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 指導主事
永島 千津子	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 幼児教育コーディネーター
小笹 菜太	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 主事
梶谷 美鈴	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 課長補佐
渡邊 紀子	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主任
山田 大翔	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主事

島根県幼児教育振興プログラム改訂骨子案に係るヒアリング要旨

令和6年8月22日開催

於 島根県職員会館

1 ヒアリングにおける意見要旨

(1) 第1章（改訂の趣旨）

- ・ 『『こどもまんなか』社会』『こども基本法』等をワードとして入れるのはどうか。
- ・ 子ども中心に考えることがキーワードになっているので、記載する。
- ・ 松江市では「こどもまんなかビジョン」を出した。どこの市町でも、同様な考え方をしている。共通ワードとして入れてはどうか。

⇒「子どもまん中」のワードを採用するとなると、範囲が大きく広がり、論旨が曖昧になるため、記載には要検討

(2) 第2章（円滑な幼小連携・接続の推進のために大切なこと：3つの柱）

- ・ 大きな柱はこれでよいと思う。
- ・ 「遊び育つ」から「遊びこむ」となった。現場にとって「遊びこむ」は大切。言葉が変わった理由についての説明が欲しい。
- ・ 「遊び育つ」から「遊びこむ」への変化の経緯が示されれば、伝わりやすくなる。
- ・ 「遊び育つ」と「遊びこむ」の違いについて1～2行の説明が必要。
- ・ 見た目では「遊びこむ」を評価することはできない。
- ・ 「遊びこむ」は、小学校以降の「主体的に学ぶ」ということとつながる。
- ・ 「遊びこむ」について、目に見える子どもの事実のみを追いかけてしまっているといけない。深い部分が伝えられるとよい。
- ・ 遊びこむプロセスである「心が動き、やってみて、新たな発見・気づき、友達も巻き込んで、めあてに向かって繰り返し繰り返し試してみる、やり遂げる」
・・・こういうことが、小学校の全教科の、「問いを立て、解決方法を考え、やってみる、解を得るまでやり抜く」というところにつながる。
- ・ 「遊びこむ」について定義が記載されると、狭くなってしまうと思う。
- ・ 島根県の子どもたちのどこを伸ばしたくて「遊びこむ」なのか。経緯についての記述があるとよい。

⇒現行の「遊び育つ」と「遊びこむ」の違いを含めた、県民にも広くわかりやすい表記に努める。

(3) 第3章（取組の方向性）

- ・ 出雲市は保幼小交流の日を設けることによって、以前より小学校と連携しやすくなったが、小学校の先生方向けの内容を記載する必要がある。
- ・ 1校対複数園といった小学校区にも使えるものに仕上げしてほしい。
- ・ 実践のための視点の中に、管理職のリーダーシップを入れてほしい。
- ・ 架け橋プログラムのモデル校区としての日原小学校区を取組から、幼小の職員の子どもを見る目がそろっているということがとても大事なことだと実感している。

「遊びこむ」ということはどういうことなのか、幼小で目線がそろそろ内容を期待する。

- ・ 連携・対話しないと、子どもの見方は変わらない。残念なギャップ。
- ・ 連携はするが、子どもの見方、考え方の共有がなかなかできない。
- ・ 連携とはいうけれど、接続はわからない。そんな人が多い。
- ・ 保幼小中の連携の先には何があるかを示せるとよい。
- ・ 18歳から逆に見て、0歳では何ができなければならないかを考えるという視点も大切。

☞取組の方向性における①小学校側にも学びの土台としての「遊びこむ」、②幼小連携・接続における「接続」の理解促進につながる表記に努める。

(3) 第4章（幼児教育施設における取組の内容）

〈発達のためやす〉について

- ・ 0歳の「思考力の芽生え」では、「試したり、工夫したり」の前に、「気づく」「違いに気づく」「同じことを何回も繰り返す」といったことが、あるのではないか。
- ・ 「人とかかわる力」における0～2歳のところが難しい印象。
「折り合いをつける」が難しい。
- ・ 「共有」を2歳でするのも、難しさを感じる。「共有」は4～5歳ではないか。
「場」は共有するだろうが、見えないものの共有は難しい。
- ・ 3歳児の、「生活していく力」の「友達と情報交換をする」というのが、どれくらいの範囲のことを言っているのか。難しいことではないか。
- ・ 0歳のところの、「身近な人とのやりとり」に限れば、2か月の子でもできる。
「楽しむ」となると、それを確認するのは難しい。
「信頼関係」に触れる内容があってもよいのではないか。
- ・ 「ごっこ遊び」は「思考力」ではなくて、「人と関わる力」ではないか。
「思考力」に入れるのであれば、「ごっこ遊び」ではない表現がよい。
- ・ 「イメージを共有して遊ぶ」、それが年長になると、「共通の目的」が生まれる。
- ・ イメージの前に、「いろいろな経験」「出会う」「知る」というのがあってもよい。

☞ 現行及び保育所保育指針等の内容をもとに作成しているが、現場の子どもたちの姿との違いが指摘されたことについては、幼児教育推進協議会座長の指導・助言を受け、検討

〈めざす子ども像実現のための幼児教育の具体：2(2)環境を通して行う教育〉

- ・ 経験がつながる保育の構想（行事と遊びのつながり、体験と遊びのつながり等）
経験や体験を一つしたら終了ではなく、遊びにつながっていくということ
- ・ 自然、生き物に触れる等の具体的な言葉が欲しい。

〈めざす子ども像実現のための幼児教育の具体：2(4)小学校接続を見通した視点〉

- ・ 「小学校の学びを理解する」について具体的に書いてほしい。

☞ 「小学校『へのつながり』を理解する」に変更

- ・ 教育内容の共通理解が必要。事例が示されているとよい。

〈家庭・地域との連携〉

- ・ 親学プログラムというものは入らないか。保護者力育成の面で。

家庭、地域ひっくるめて共に育つというメッセージが欲しい。

2 ヒアリング以降の動き

- (1) ヒアリングによって、骨子案の大筋は変更なし
 - ① ヒアリングの要旨をもとに、骨子案に肉付けをした基本資料について幼児教育推進室内で協議
 - ② 基本資料について、次回第3回幼児教育推進協議会（10月10日）において協議

- (2) 執筆作業
 - ・ 幼児教育推進協議会における協議を経て執筆

- (3) 今後のスケジュール
 - 〈10月〉
 - ・ 常任委員会報告
 - 〈11月〉
 - ・ 第4回幼児教育推進協議会において掲載基本資料について協議
 - 〈12月〉
 - ・ パブリックコメント
 - 〈1月〉
 - ・ 第5回幼児教育推進協議会においてパブリックコメント結果報告
 - 〈2月〉
 - ・ 常任委員会報告（パブリックコメント結果）
 - ・ 教育委員会会議を経て公表
 - 〈3月〉
 - ・ 改訂版策定

島根県幼児教育振興プログラム改訂版
「しまねの架け橋期の教育ガイド」
～幼児教育と小学校教育をつなぐ～

I 改訂の趣旨

1 改訂のねらい

- ・ 現行プログラム策定時より、多様な価値観、予測不可能な社会の情勢が進む。今後さらに複雑化する社会の中で、子どもの「生きる力」を育むため、その土台となる、幼児教育の質の向上と幼小連携・接続のあり方の見直しは重要課題

2 国の取組

- ・ 幼小の円滑な接続の促進

3 県の取組

- (1) 改訂版島根教育ビジョン（幼児教育の重要性を土台にした取組）
- (2) しまねの架け橋期の教育
 - 幼児教育の質の向上
 - 学びと育ちをつなぐ

II 円滑な幼小連携・接続の推進のために大切にしたい2つの柱

1 つめの柱： 「人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性」の理解

(1) 資質・能力の芽生え【遊びを通しての総合的な支援指導】

i) 環境への主体的なかかわり

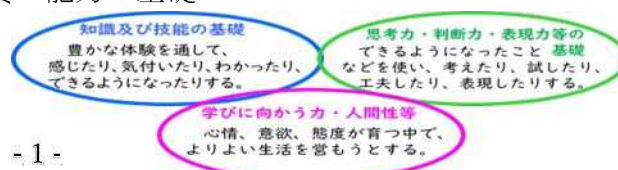
幼児教育は、「環境を通して行う教育」であり、「子どもが保育者と生活する中で、自ら興味・関心をもって環境（ひと・もの・こと）に関わり、遊びに没頭する中で試行錯誤し、環境へのふさわしい関わり方を身に付けていくことを意図した教育

子ども自身の興味や欲求にもとづいた直接的・具体的な体験だからこそ培われる、「豊かな心情」「ひと・もの・ことに自らかかわろうとする意欲」「健全な生活を営むために必要な態度」は、人格形成の基礎となるもの

直接的・具体的な体験において、子ども自身の心が動かされ、自らの気づきやきっかけによって活動が変化し、達成感や充実感を味わいながら、ひと・もの・ことの面白さ、不思議を実感し、さらなる遊び(学び)への没頭が生まれる。

このような遊び(学び)を通して子どもの心や身体が健やかに育っていく。この達成感や充実感を含めた非認知能力が、子どもの学びに向かう力の土台となる。

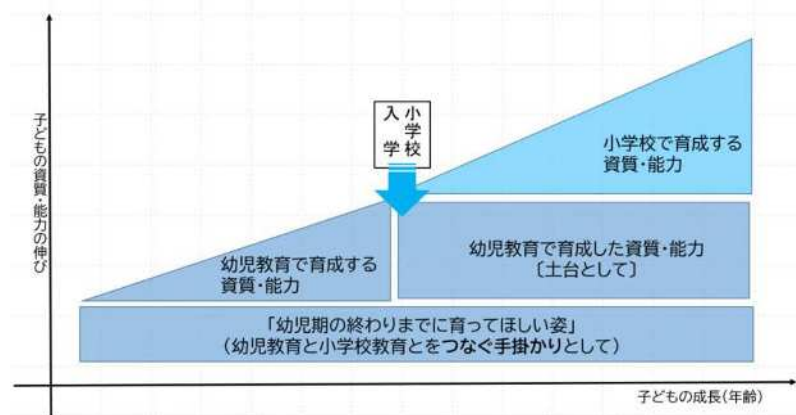
ii) 総合的に育まれる3つの資質・能力の基礎



(2) 幼児教育を土台にした「つなぐ教育」
 = 「小学校からのゼロスタートにしない」



- ・ 幼児教育から小学校教育への一貫した教育
 0歳からの豊かな体験の積み重ねによる学びの連続性
- ・ 非認知能力（好奇心、協調性、粘り強くがんばる力等）は、小学校以降の学びに向かう力の基盤
- ・ 小学校入学という環境の大きな変化によって、子どもにとっての障壁を生まないための円滑な幼小連携・接続



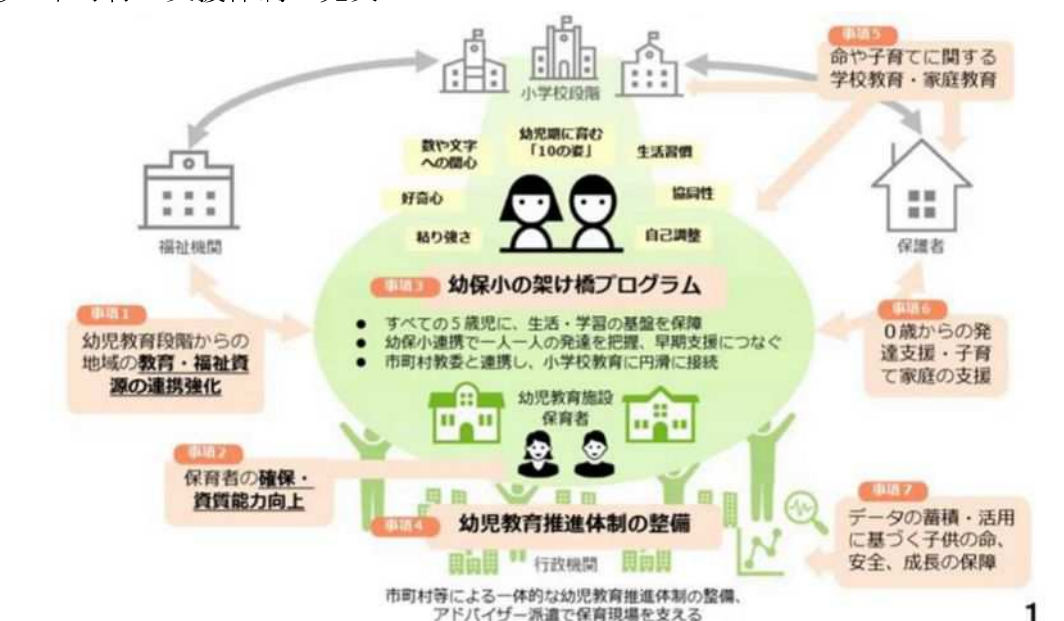
2つめの柱： 「架け橋期の教育の充実」のための一体的支援

(1) 架け橋期の教育の充実の方向性

- ① 幼児教育と小学校教育の相互理解
- ② 小学校以降、幼児期の学びを基礎に子どもが主体的に自己を発揮して学びに向かうこと
- ③ 幼児教育施設の施設種関係なく、幼小一体となって架け橋期の教育の充実に取り組むこと
- ④ 子どもに関わる関係者の一体となった支援

(2) 架け橋期の教育の充実をめざす上で期待する変化

- ① 架け橋期の子どもへの支援のあり方の見直し
- ② 子どもの学びの変容
- ③ 市町村の支援体制の充実



★各市町村体制図……「幼児教育スタートプラン」のイメージ図を参考に

III 取組の方向性

1 めざす子ども像

いきいきと

周りの「ひと・もの・こと」と関わりながら

遊びこむ子ども

～ 主体的な学びに向かい、

深い学びへつながる姿をめざして～

- ・ 現行では、遊びの循環の中で「遊び育つ」姿をめざす。
- ・ 今回の改訂では、子どもが発達段階に応じて、遊びから自ら学びを獲得し、他者との関わりの中でさらに遊びに没頭し、遊びを発展させながら、課題解決し、身近な環境を文化的価値あるものへと変えていく、子どもの遊び（学び）が深まる姿を「遊びこむ」姿とし、めざす子ども像を設定
- ・ 深い学びへとつながる「遊びこむ」子どもの姿は、学校教育での主体的・対話的で深い学びの土台
- ・ 小学校以降、特に架け橋期のめざす子ども像として、幼児教育及び小学校教育において実現をめざす。

(1) 「いきいきと」・・・主体的な学び

- ・ 生まれながらにしてもつ、「自ら育つ力」を発揮する姿
- ・ 周囲の環境（ひと・もの・こと）に能動的に関わろうとする力を発揮する姿
- ・ 頭も心も体も動かして、主体的に活動する姿
- ・ 安心して自分の思いを思いのまま表そうとする姿

(2) 「周りの『ひと・もの・こと』と関わりながら」・・・対話的な学び

- ・ 興味・関心をもとに、様々なひと・もの・ことに関わる姿
- ・ コミュニケーションの楽しさや必要性を感じる姿
- ・ 友だちと伝え合い、学び合う姿（対話の満足感）
- ・ 協同的に活動する中で、気持ちに折り合いをつけようとする姿

(3) 「遊びこむ子ども」・・・深い学び

「遊び育つ」から「遊びこむ子ども」へ

島根県幼児教育振興プログラムにおけるめざす子ども像は、「いきいきと周りの『ひと・もの・こと』と関わりながら遊び育つ子ども」とし、様々な環境に触れたり、友だちと関わったりしながら夢中で遊び、様々な気づきや試行錯誤の中で、さらに新しい遊びを考え、その遊びの循環の中で自ら育つ、「遊び育つ」姿をめざすこととした。

今回の改訂では、子どもの興味・関心を湧き起こす環境の中で、子どもが自ら遊び育つ姿から、さらに以下のように、子どもが発達段階に応じて、遊びから自ら学びを獲得し、他者との関わりの中でさらに遊びに没頭し、遊びを発展させながら、課題解決し、環境をも文化的価値あるものへと変えていく、子どもの遊び(学び)が深まる姿を「遊びこむ」姿とした。

- ・ 自ら遊びに集中し、没入し、遊びの循環の中で試行錯誤を繰り返し、新たな発想、ひととの関わりから深い学びへと深化する姿
- ・ 環境（ひと・もの・こと）に能動的に関わるからこそ得る、気づき・発見・不思議等に対し、解決・挑戦する面白さを感じながら、さらに新たな課題に向けて取り組もうとする姿
- ・ 主体的・対話的で深い学びにつながる学びの姿

2 めざす子ども像実現のための視点

(1) 各発達段階にふさわしい生活の場

【大切にしたい視点】

- ◆ 自分自身が守られているという実感を土台とした安定した情緒
- ◆ 子どもの心に寄り添うこと
- ◆ 一人一人の子どもの興味や関心に基づいた直接的・具体的体験
- ◆ 「自立」につながる適切な援助
- ◆ 他者（友だち）とのかかわり

(2) 発達の段階を踏まえた教育・保育

【大切にしたい視点】

- ◆ 保育における一人一人の発達に即した環境の提供
- ◆ 幼児期における発達の個人差に留意した発達をめやすの理解
- ◆ 小学校へのつながりを意識した保育
- ◆ 幼児教育において育まれたことが円滑に接続される、生活科を中心とした指導の工夫

(3) 一人一人の子どもの実態特性に応じた保育・教育指導

- ・ 子ども自身が抱く困り感への理解
- ・ 集団での学びを中心とした個別の支援
- ・ 組織的・計画的な指導

3 子どもを中心につなぐしまねの幼小連携・接続

- (1) 幼小の「接続」とは
- (2) 幼児教育と小学校教育の違い
- (3) 小学校入学後に子どもが感じる戸惑い・不安等・・・小1プロブレム 他
- (4) 接続の基盤としての幼小対話
～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとした幼小の対話～
 - ・ 10の姿とは
 - ・ 10の姿の留意点
 - ・ 10の姿を活用した対話のテーマ例
- (5) 幼小接続（幼小協働の架け橋期のカリキュラム開発）
 - ① カリキュラムイメージ
 - 1) 必須記載事項1：めざす子ども像 等
 - 2) 必須記載事項2：遊びや学びの場で大切にしている経験
 - ・ 指導計画の目標として
 - ・ カリキュラムの評価の観点として
 - 3) 必須記載事項3：園で展開する活動
生活科を中心とした各教科等の単元構成
 - 4) 必須記載事項4：幼小交流活動
 - 5) その他の記載事項
 - ② 園所・校・行政が連携して進める架け橋期のカリキュラム・・・【参考】
～開発の4フェーズ
- (6) 架け橋期のカリキュラムの評価の工夫による PDCA サイクルの確立
- (7) カリキュラム開発のための研修例

(8) 幼小をつなぐ発達のためやす ※幼小をつなぐ発達のためやす一覧表（巻末）

【発達において育みたい3つの力】

i) 主として「生活していく力」・・・「いきいきと」との関わり

- ・ 心と体を働かせ、主体的に活動する子どもの姿

ii) 主として「人とかかわる力」・・・「周りの『ひと・もの・こと』」との関わり

- ・ 環境への能動的な関わりをとおして、様々な力を身に付けていくことを期待
- ・ 周りのひと・もの・ことへの関わりの中で、子どもが遊びこむ過程にとって、保育者をはじめ、他の子どもとのかかわりがその子どもの遊び（学び）を支える観点が必要
- ・ 地域や様々な生活の場において人との関わりが希薄となりつつある今日、人との関わりに不安を感じたり、コミュニケーション力に課題があったりする子どもの発達を支えるためにも、「人」とのかかわりに焦点を当てる。

iii) 主として「思考力の芽生え」・・・「遊びこむ」との関わり

- ・ 遊びに熱中・集中・没入し、子ども自ら試行錯誤を繰り返すことを通して、学びに向かう力を培っていく。
- ・ 子どもたちの学びの芽生えであり、変動する社会を生き抜くために重要な課題解決力の土台ともなる「思考力の芽生え」となると考える。

【幼児教育から小学校教育で育みたい力】

乳幼児期に育てたい力(0歳～小学校就学時)		幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	小学校での学び			
生活していく力	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動し、健康な心と体を育てる。 ・自分のことは自分で行い、主体的に園生活を送る。 ・生活リズムを身に付ける。 	幼児教育と小学校教育との連携・接続	生活	体育	
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で行動し、自立心を育てる。 ・先生や友だちとのかかわりを深める。 ・遊びを通して、一緒に活動する楽しさを味わう。 ・人に対する思いやりの気持ちを育てる。 ・きまりやルールを守り、規範意識を育てる。 			特別活動	
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉で表現する。 ・先生や友だちの話を聞き、自分から考えや思いを話したりする。 ・日常の中で気持ちのよい挨拶をする。 ・絵本や童話に親しむ。 			道徳	
人とかかわる力	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや考えたことを伝える。 ・音楽や造形活動、身体表現などで自分を表現する。 ・豊かな感性と創造性を豊かにする。 	言葉による伝え合い	国語	社会科	
思考力の芽生え	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に主体的に関わり、生活に取り入れていく。 ・考えたり、発見したり、工夫したりし、好奇心・思考力・表現力の基礎を培う。 ・周囲の自然や社会に関わり、関心をもつ。 	豊かな感性と表現	音楽		
			<ul style="list-style-type: none"> ・数量・図形・文字等への関心・感覚 	思考力の芽生え	図画工作	理科
					算数	

★小山教授作成 幼小の子どもの力のつながりの図を参考に

【参考】

園所・校・行政が連携して進める架け橋期のカリキュラム（以下 「カリキュラム」）
開発イメージ※1

	自治体開発会議の取組例	小学校区の取組例（主なもの）
フェーズ 1 基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会、福祉部局による開発会議設置 ・域内の幼小連携・接続状況の把握 ・部局間・幼小連携の担当者割当 ・幼小接続に係る研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長・校長によるリーダーシップ体制の構築 ・園・校の連携・接続担当者割当 ・小学校区合同会議設置 ・カリキュラムについての研修開催 ・教職員交流 ・子供の交流
フェーズ 2 検討・開発	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携・接続に係る成果と課題の把握及び検討 ・カリキュラムの方針等検討 ・カリキュラム開発支援 ・域内園・小との連携を密にし、定期的な情報交換 ・教職員合同研修実施 ・域内園・小の研修に対する財政支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区教職員が相互の教育・子どもの学びや育ちの現状について理解を深める ・カリキュラム開発体制の構築 ・カリキュラムの具体化（共通で大切にしたい経験のプロセス、園での活動、小での単元構成、配慮事項等） ・カリキュラムに基づいた子どもの交流を合同で計画・実施・評価・改善 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、教育実践に対する意見交換
フェーズ 3 実施・検証	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム実施状況の把握と検証 ・域内園・小との連携を密にし、定期的な情報交換し、開発会議に反映 ・保育、授業、幼小合同研修の成果・課題把握と検証 ・幼小接続推進に対する財政支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムをもとに指導計画を作成し、実践・検証 カリキュラムの幼小の共通視点が実践で生かされているか カリキュラムは幼小相互の理解を深めているか 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとにした改善 指導計画に具体化する上でのカリキュラムの課題流には互恵性があるか 子供同士の自発的活動はあったか など
フェーズ 4 改善・発展	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査結果等を活用して、カリキュラムの成果と課題について総括 ・カリキュラムの方針等の改善・発展を検討 ・幼小連携・接続の支援策についての改善・発展を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものウェルビーイングを高める視点から、カリキュラムの共通の視点を見直す。 ・中長期的な展望の検討 ・持続性・発展性の観点からの校区の取組の評価・改善 ・PDCA サイクルの共通理解 ・小学校区交流活動（こども・教職員）の評価・改善

※1 参考「幼児小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」

IV 幼児教育施設における取組の内容

1 めざす子ども像実現のための幼児教育の取組の具体

(1) 子ども理解に立った保育

- i) 信頼関係
- ii) 子ども理解の重要性

(2) 環境を通して行う教育

- i) 大切にしたい環境構成等
- ii) 子どもの主体性と保育者の意図のバランスの重要性

(3) 学びの循環（現行：P. 11. 12）

- ・ 主体的・対話的で深い学び



遊びのプロセス	見られる姿
遊びの創出	遊具、素材、用具や場の選択・準備 友達との誘い合い
遊びへの没頭	楽しさや面白さの追求、 試行錯誤、工夫、協力、 失敗や葛藤、問題の解決、 折り合い、挑戦
遊びの振り返り	振り返り 明日への見通し

(4) 小学校接続を見通した視点

- ・ 遊びを通した主体的な学びの実践
(小学校以降の生活や学習の基盤としての幼児期の学び)
- ・ 幼児期の発達に応じた子どもの力の育成について発信する力
- ・ 小学校の学びを理解する（生活科を中心として）
- ・ 幼小協働による架け橋期のカリキュラムの作成

(5) 円滑な接続を支える特別支援教育（保育における特別支援教育の視点）

- ・ 実態把握
- ・ 支援の検討
- ・ 関係機関との連携
- ・ 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成
- ・ 幼小連携・接続

2 施設内研修における人材育成

（保育者の資質・能力の向上に向けた人材育成の取組）

- ・ 保育者に求められる専門性（参照：R5 実態把握調査）

3 家庭・地域との連携

- ・ 家庭教育との連携……「生活していく力」「コミュニケーション力」
- ・ 家庭教育をサポートする役割……直接的体験、地域との関わり重視
(保育の中で体験格差を改善していく)

V 小学校における取組

- 1 小学校生活スタート期の工夫
- 2 生活科の取組例

巻末掲載

- 1 幼小をつなぐ発達のめやす
- 2 架け橋期のカリキュラム表
- 3 発達の特性
- 4 島根県の施策 (QR コード掲載 県幼児教育センターHP にて毎年度更新)
 - 島根県の幼小連携・接続に係る取組状況
 - 架け橋期の教育の充実に向けた実践例
 - 幼児教育の質の向上につながる研修例、実践例
 - 保育人材確保 (育成) 関連

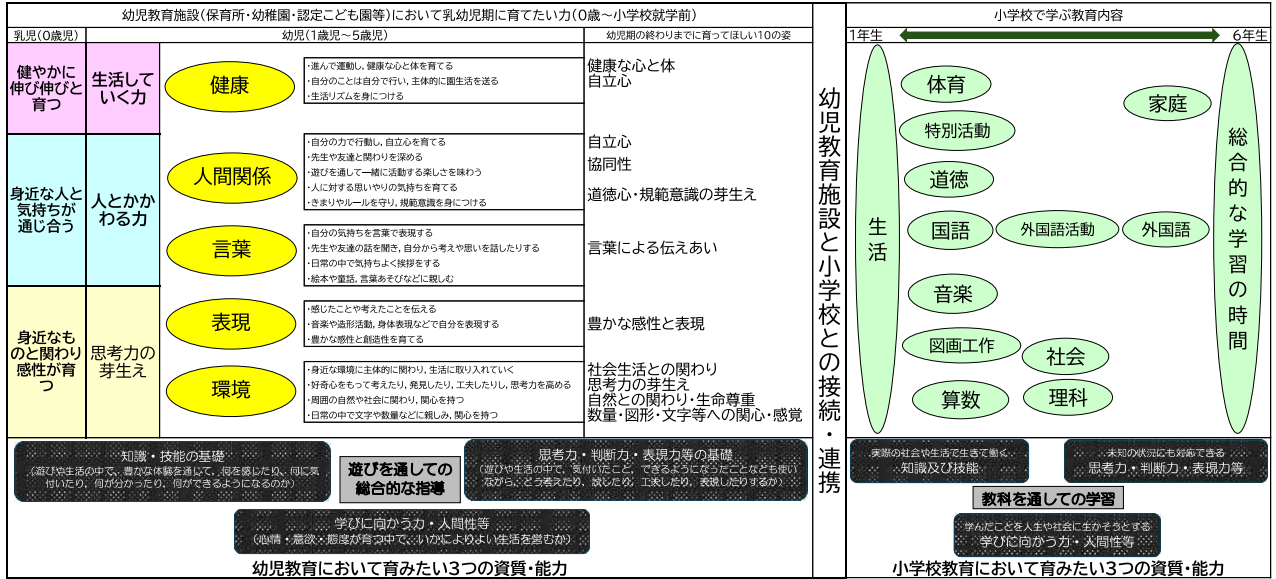


図. 幼児教育から小学校教育の12年間で身につけたい力

幼小をつなぐ発達のめやす

※下線のもの、現行にはない内容または表現を加えたもの

○めざす子ども像実現に向けた3つの視点（島根教育魅力化ビジョン「学力・社会力・人間力」へのつながりから）

※ 発達のめやすの中で、意識した支援、取組が必要

★ 「いきいきと」⇒ 頭も心も体も動かして、主体的に活動する姿⇒ 「生活していく力」…主に健康領域、表現領域、環境領域

★ 「周りの『ひと・もの・こと』と関わりながら」⇒ 関わりをとおして⇒ 「人とかがわかる力」…主に健康領域、人間関係領域、言葉領域

- ・ひと・もの・ことへの関わりの中で、子どもが遊びこむ過程にとって、保育者をはじめ、他の子どもとのかかわりがその子どもの遊び（学び）を支える。
- ・現代社会の人間関係の希薄さ等により、子どもたちの人間関係づくりの課題が大きくなる中、ここでは「ひと」とのかかわりに焦点を当てることとする。

★ 「遊びこむ」⇒ 遊びに集中・没入し、試行錯誤を繰り返すことを通して⇒ 学びの芽生え…その中でも「思考力の芽生え」に特化

【しまね教育魅力化ビジョン】

主に「人間力」とのかかわり

主に「社会力」とのかかわり

主に「学力」とのかかわり

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	
育ちの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・身体感覚が育つ。 ・快適な環境に心地よさを感じる。 ・保育者等による語りかけ等を通じて、言葉への興味や、発語への意欲が育つ。 ・伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のまねをする。 ・身近な動植物に気づき、親しむ。 ・安定した関係の中で共に過ごす。 ・形、色、大きさなどに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、飛ぶ等全身を動かす。 ・身近な動植物に気づき、親しむ。 ・安定した関係の中で共に過ごす。 ・自我が形成され、自己主張が強くなる。 ・絵本や物語に親しむ。 ・音楽に親しみ、歌ったりリズム楽器を楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動機能が巧みになる。 ・戸外で十分に体を動かす。 ・自然の美しさ、不思議さに気づく。 ・自我が形成され、自己主張が強くなる。 ・絵本や物語に親しむ。 ・音楽に親しみ、歌ったりリズム楽器を楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を楽しむ。 ・身近にあるものや遊具、用具を使って、工夫して遊ぶ。 ・身近な自然現象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 ・感じたこと、考えたことを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり作ったりする。 ・よいことや悪いことがあることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動ゲーム（ルール）を楽しむ。 ・安全に気を付けて行動する。 ・身近にあるものや遊具、用具を使って、工夫して遊ぶ。 ・身近な自然現象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 ・感じたこと、考えたことを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり作ったりする。 ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりして楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動ゲーム（ルール）を楽しむ。 ・安全に気を付けて行動する。 ・身近にあるものや遊具、用具を使って、工夫して遊ぶ。 ・身近な自然現象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 ・感じたこと、考えたことを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり作ったりする。 ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりして楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動ゲーム（ルール）を楽しむ。 ・安全に気を付けて行動する。 ・身近にあるものや遊具、用具を使って、工夫して遊ぶ。 ・身近な自然現象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 ・感じたこと、考えたことを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり作ったりする。 ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりして楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動ゲーム（ルール）を楽しむ。 ・安全に気を付けて行動する。 ・身近にあるものや遊具、用具を使って、工夫して遊ぶ。 ・身近な自然現象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 ・感じたこと、考えたことを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり作ったりする。 ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりして楽しさを味わう。

生活していく力	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味・関心をもつ。 ・保育者等による温かく、受容的な関わりから、丸ごと受け止めてもらえる安心感をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣に興味・関心をもち、自分でしてみようとする。 ・日頃から関わる人と挨拶をする。（他者意識） 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活リズムを身に付ける。 ・生活習慣で必要なことについて、自分でできることは自分でする。 ・生活に関係の深い情報などに興味をもち、友達と情報交換する。 ・友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活リズムを身に付ける。 ・生活習慣で必要なことについて、自分でできることは自分でする。 ・生活に関係の深い情報などに興味をもち、友達と情報交換する。 ・友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活リズムを身に付ける。 ・生活習慣で必要なことについて、自分でできることは自分でする。 ・生活に関係の深い情報などに興味をもち、友達と情報交換する。 ・友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活リズムを身に付ける。 ・生活習慣で必要なことについて、自分でできることは自分でする。 ・生活に関係の深い情報などに興味をもち、友達と情報交換する。 ・友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活リズムを身に付ける。 ・生活習慣で必要なことについて、自分でできることは自分でする。 ・生活に関係の深い情報などに興味をもち、友達と情報交換する。 ・友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活リズムを身に付ける。 ・生活習慣で必要なことについて、自分でできることは自分でする。 ・生活に関係の深い情報などに興味をもち、友達と情報交換する。 ・友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
---------	---	--	---	---	---	---	---	---

人とかがわかる力	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人との応答を通して、声や表情等でのやり取りを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者をまね、友だちに対する適切な行動や言い方を身に付けていく。 ・周りの大人や子どもに関心をもち、関わろうとする。 ・保育者等の仲介を通して、自分の思い等に対して折り合いをつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と喜びや悲しみを共感しあう。 ・保育者や友だちの言葉に興味をもち、聞いたり話したりする。 ・自分が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と喜びや悲しみを共感しあう。 ・保育者や友だちの言葉に興味をもち、聞いたり話したりする。 ・自分が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と喜びや悲しみを共感しあう。 ・保育者や友だちの言葉に興味をもち、聞いたり話したりする。 ・自分が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と喜びや悲しみを共感しあう。 ・保育者や友だちの言葉に興味をもち、聞いたり話したりする。 ・自分が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と喜びや悲しみを共感しあう。 ・保育者や友だちの言葉に興味をもち、聞いたり話したりする。 ・自分が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と喜びや悲しみを共感しあう。 ・保育者や友だちの言葉に興味をもち、聞いたり話したりする。 ・自分が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と喜びや悲しみを共感しあう。 ・保育者や友だちの言葉に興味をもち、聞いたり話したりする。 ・自分が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。
----------	--	--	---	---	---	---	---	---	---

思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・見る、触れる（探索等）を通して、関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応答的な関わりや模倣で、次第に言葉を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを共有しながら見立て（ごっこ）遊びをする。 ・並べる、比べる、数える等、数量感覚を使う遊び方をする。 ・文字や数への興味や芽生え、生活の中で字を見つけたり、数を数えたりする。 ・探索活動を通して、探求心が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを共有しながら見立て（ごっこ）遊びをする。 ・並べる、比べる、数える等、数量感覚を使う遊び方をする。 ・文字や数への興味や芽生え、生活の中で字を見つけたり、数を数えたりする。 ・探索活動を通して、探求心が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを共有しながら見立て（ごっこ）遊びをする。 ・並べる、比べる、数える等、数量感覚を使う遊び方をする。 ・文字や数への興味や芽生え、生活の中で字を見つけたり、数を数えたりする。 ・探索活動を通して、探求心が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを共有しながら見立て（ごっこ）遊びをする。 ・並べる、比べる、数える等、数量感覚を使う遊び方をする。 ・文字や数への興味や芽生え、生活の中で字を見つけたり、数を数えたりする。 ・探索活動を通して、探求心が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを共有しながら見立て（ごっこ）遊びをする。 ・並べる、比べる、数える等、数量感覚を使う遊び方をする。 ・文字や数への興味や芽生え、生活の中で字を見つけたり、数を数えたりする。 ・探索活動を通して、探求心が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを共有しながら見立て（ごっこ）遊びをする。 ・並べる、比べる、数える等、数量感覚を使う遊び方をする。 ・文字や数への興味や芽生え、生活の中で字を見つけたり、数を数えたりする。 ・探索活動を通して、探求心が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを共有しながら見立て（ごっこ）遊びをする。 ・並べる、比べる、数える等、数量感覚を使う遊び方をする。 ・文字や数への興味や芽生え、生活の中で字を見つけたり、数を数えたりする。 ・探索活動を通して、探求心が芽生える。
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

現行にある表現の中で改訂版に入れていない表現	<ul style="list-style-type: none"> ・情緒的な関わりの中で、自分を肯定する気持ちの芽生え。 ・見近なものに関わり、感性が育つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事などに興味や関心をもつ。 ・探索活動を通して、物の性質や仕組みに気づき、探求心が芽生える。 ・全身で感覚を楽しむ。 ・リズムを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化に気づく。 ・探索活動を通して、物の性質や仕組みを知り、活用する。 ・生活習慣活動を自分で必要性を確認し、行動する。 ・製作物を遊びに使ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の催しや出来事に興味をもつ。 ・地域の人々と関わる。 ・遊び込んで物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ・生活の中で言葉の楽しさ、美しさに気づく。 ・健康に関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の催しや出来事に参加する。 ・公共施設を利用する。 ・多様な文化伝統に親しむ。 ・文字等で伝える楽しさを味わう。
------------------------	--	--	---	--	--

※取り消し線を加えているものは、①そのままの表現ではなく、表現を少し変えている。②他の年齢のところにしている。